

**1,6-ヘキサンジオールジアクリレート  
(二アクリル酸ヘキサメチレン)  
 $\text{CH}_2=\text{CHCOO}(\text{CH}_2)_6\text{OCOCH}=\text{CH}_2$   
[CAS No. 13048-33-4]  
感作性分類 皮膚第2群**

塗料工場で働く20歳の男性が、誤まって100%の1,6-ヘキサンジオールジアクリレート (HDDA) 液をズボンの上から右大腿部にかぶり、HDDA 液を除去するのに15分を要した。12日後、右大腿前部、右膝内側、左大腿部などに、灼熱感、かゆみ、及び小さな斑状紅斑様の病変が出現した。これらはステロイド塗布により治療開始から10日後には治癒した。パッチテストにおいて、標準シリーズでは陰性であったが、HDDA 0.1%液に2日後と4日後に陽性(++)であった<sup>1)</sup>。印刷工場で働く51歳の男性が、紫外線硬化処理したアクリル樹脂を使用する部署に配置転換になってから数週間後に、手に皮膚炎が出現した。病変は、休日には軽快したが、この仕事に従事すると再び病変が出現した。気管支喘息と花粉症の既往歴を有していたが、湿疹や手の皮膚炎の既往歴はなかった。パッチテストにおいて、HDDA に強い陽性を示し、またHDDA で表面処理を行った樹脂シートに対しても陽性を示した。HDDA で表面処理を行っていない樹脂に対しては陰性であった<sup>2)</sup>。紫外線硬化処理を行ったインクに職業的に曝露していた33歳の女性が、アレルギー性接触皮膚炎に引き続いて中毒性皮膚壊死症を発症した症例

が報告されている。この症例はパッチテストにおいて、インクの成分のうち、HDDA、HDDA と urethane acrylate の混合物、propoxylated neopentyl glycol diacrylate に陽性であった<sup>3)</sup>。HDDA は動物実験では、Guinea-Pig Maximization test において、高い陽性率60% (9/15) が報告されており、本物質の感作性作用を裏づけている<sup>4)</sup>。

以上のように、複数の施設においてHDDA に曝露して皮膚炎を発症した症例でHDDA に陽性反応が報告されていることから、本物質を感作性分類皮膚第2群として提案する。

参考：他の機関の感作性物質分類  
DFG 皮膚感作 (Sh)

## 文 献

- 1) Botella-Estrada R, Mora E, de la Cuadra J. Hexanediol diacrylate sensitization after accidental occupational exposure. *Contact Dermatitis*. 1992;26:50-1.
- 2) Morgan VA, Fewings JM. 1,6-hexanediol diacrylate: a rapid and potent sensitizer in the printing industry. *Australas J Dermatol*. 2000;41:190-2.
- 3) Ido T, Kiyohara T, Takahashi H, Yamaguchi Y, Tani D, Kumakiri M. Toxic epidermal necrolysis following allergic contact dermatitis caused by occupational exposure to ultraviolet-cured inks. *Acta Derm Venereol* 2012;92:313-5.
- 4) Bjorkner B. The sensitizing capacity of multifunctional acrylates in the guinea pig. *Contact Dermatitis*. 1984;11:236-46.